

岡崎の昔ばなし

第二



岡崎の昔ばなし (第二集)

発行 平成四年十月

著者 佐々木正磨

一九一七年生 佐々木学園園長・理事長

レオナ幼稚園園長

岡崎市大西一―七―十一

絵 堀江万寿男

一九一六年生 二紀会審査委員

愛知県愛知郡日進町赤池毛千口二十一―九十

印刷 有限会社 田中印刷所

その六 大円寺の田植観音さま

岡崎市大門町字西欄木に大円寺という浄土宗のお寺があります。この寺には古くから非常に靈驗あらたかな佛様、田植観音さまが安置されています。石田茂作博士の鑑定によると、室町時代の作で一尺三寸程の坐像の尊像です。

現在大門町一帯は宅地造成されて一面の住宅地であり、また商店街、工場が立ち並び、田圃等見たくともありません。

それなのに田植観音さまがあられるとは思議に思われるかもしれませんが、昭和に入り宅地造成される前は、大樹寺本坊の西から矢作川提防下まで見渡す限りの青田圃でした。ここに次

の様なお話があります。

むかしむかし、大門村におじいさんとおばあさんが貧しいながらも百姓をして仲良う暮しておりました。二人は熱心な観音さまの信者でした。朝田圃へ行く時は廻り道してでも大円寺の山門の処に立ち、今日一日平和でありますようにと礼拝し、晩家に帰る時は今日一日無事でありがとうございましたと合掌するのが日課でした。

そうした或年のこと、雨が幾日も降らず、田圃という田圃は凡てひびわれて畑の作物は枯死し、田植えが出来なくなりました。心配した村人達は大円寺に集り、村寄り合いをしました。先のおじいさんも一緒です。村おさがおじいさんに向つて、

「○○さ、お前よう観音さまへ参つて信仰篤いがこの日であり、
どうしたら良いのー。このままじゃ俺達は田植も出来ず、うえ
死にしてしまう。」
と言つのでした。

おじいさんはしばらく眼をつむつて考え込んでいましたが、や
おら眼をあけて言いました。

「大円寺の観音様は非常にあらたかだから、和尚さんを中心
に私もやりますが、村の方々も一緒になつて観音様に雨乞いの
願かけをして頼んでみましょう。」

と言つのでした。□には出しませんでした。此が万が一不成就
のあかつきには命を投げだすつもりでした。



和尚さん、おじいさん、村おさ、村の有志等が集まつて齋戒沐浴と言つて水で体を洗い清め、飲食を慎んで雨乞いの願をかけました。

満願の日、夜中、万雷と共に豪雨が降りしきり一夜にして田圃は満面の水です。

観音様のおかげで田植えが出来るのです。

それ以来、大円寺の田植え観音さまとたたえられる様になつたのです。